

スプレーギクの直挿し栽培に適したべたがけ資材の選定

[研究のねらい]

スプレーギクの直挿し栽培（写真 1）では挿し穂のしおれを防止するため、べたがけ資材を利用しますが、その種類が生育に与える影響は大きく、不適切な資材の利用は失敗の原因となります。そこで、温度条件の異なる春と夏に直挿しを行い、季節に適したべたがけ資材の種類について明らかにします。

[研究の成果]

- ①春季の直挿し栽培の場合、45%遮光下における晴天日の地表面の温度は、ポリフィルムで不織布および無処理と比べて高く推移し、昼間 40℃以上になりますが、葉焼け等の高温障害は発生しません（図 1）。また、ポリフィルムを用いると初期生育に優れ、切り花品質が向上します（図 2）。
- ②夏季の直挿し栽培の場合、95%遮光下における日中の地表面の温度は、資材の違いによる差はほとんどありません。ただし、夜間はポリフィルムで最も高く、不織布は 2℃、無処理では 4℃程度ポリフィルムより低く推移します。不織布では切り花重の重い、高品質な切り花が生産できます（図 3）。

[成果の活用面・留意点]

- ①本成果は、スプレーギクの直挿し栽培における安定生産につながります。
- ②不織布でべたがけを行う場合は挿し穂が乾燥しやすいので、晴天日には 1 日 1 回程度葉水を行います。

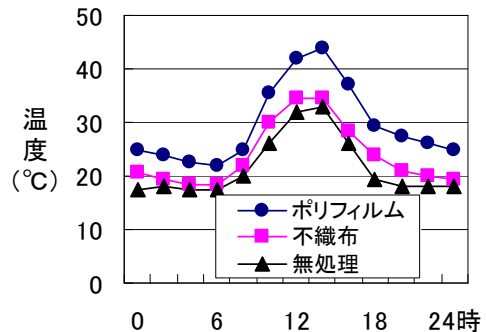


写真 1 直挿し栽培の様子

図 1 春季のべたがけ資材と地表面温度の関係

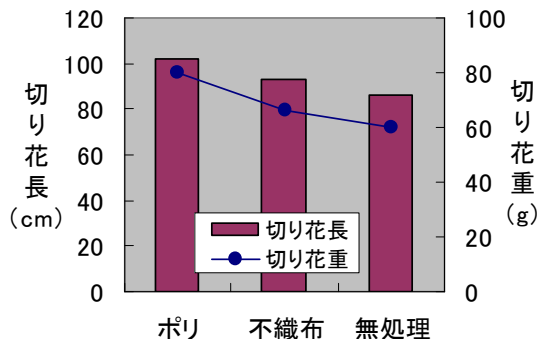


図 2 春季におけるべたがけ資材と切り花品質

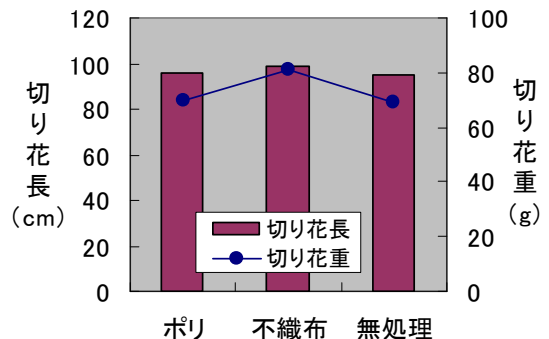


図 3 夏季におけるべたがけ資材と切り花品質

実施年度：平成 5～7 年度
担当者：本田孝志・上島良純